

池田信夫著「ハイエク、知識社会の自由主義」PHP新書 2008年9月2日刊を読む

- ・ アダムスミスの「道徳感情論」では、他人に対する共感が秩序の基礎だと論じている。

P.129

- ・ 自由を妨害している最大の要因は、煩雑な規則や政府の裁量的な介入なので、規制を撤廃してルールを明確化する制度設計こそ、自由な社会を実現するために重要なのである。

P.134

- ・ 政府の介入を抑制し、人々が自由に行動することによって、人々の選択肢は広がり、最も望ましい行動をとることができる。その結果として、多くの人々にとって望ましい効率的な状態が実現する。

このように自由度を最大化するようなルールが望ましいとする発想を「ルールの功利主義」と呼ぶ。つまり、効用を最大化するという目的には意味がないが、人々の自由度を最大化するルールを設計することが、自由な社会を設計するために必要なのである。

P.136 ~ P.137

- ・ 自由な社会を実現するためには、どのようなルールが必要か。

P.146

- ・ イノベーションを高める上で政府が積極的にできることは何もない。

しかし、政府が消極的にやるべきことは山ほどある。最大の役割はボトルネックをなくして参入を自由にする事だ。

P.183

<コメント>

日本の政府と自治体の財政再建をどうするかを考えたときに、30年前にサッチャー女史がテキストにしたハイエクの本が日本でもようやく、本気で読まれるようになった。本書は渡部昇一先生の「自由をいかに守るかーハイエクを読み直すー」PHP新書の現代版と、高く評価されている。春秋社版、ハイエク全集の「超入門書」として最適。

(林 明夫)

ー 2008年8月28日記ー